

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	3170100899
法人名	社会福祉法人 賛幸会
事業所名	グループホーム はまゆうの里
訪問調査日	平成 19年 9月 6日
評価確定日	平成 19年 9月 26日
評価機関名	いなば社会福祉評価サービス

項目番号について

外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年 10月 2日

【評価実施概要】

事業所番号	3170100899
法人名	社会福祉法人 賛幸会
事業所名	グループホーム はまゆうの里
所在地	〒680-0923 鳥取市服部204-1 (電話) 0857-51-7828

評価機関名	いなば社会福祉評価サービス
所在地	鳥取市湖山町東2-164
訪問調査日	2007/9/6

【情報提供票より】(19年 8月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 3月 20日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18人
職員数	13 人 常勤 10人, 非常勤 3人, 常勤換算 12

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	16,800 円	
敷金	なし			
保証金の有無 (入居一時金含む)	なし	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	210 円	昼食	420 円
	夕食	420 円	おやつ	昼食代に含む
	または1日当たり		1050 円	

(4) 利用者の概要(8月 1日現在)

利用者人数	18名	男性	0名	女性	18名
要介護1	3名	要介護2	11名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85.1歳	最低	71歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	はまゆう診療所
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

社会福祉法人グループの経営でグループホームに隣接して診療所があり、24時間の連絡体制が整備されており必要に応じた医療的な支援が随時行われる。また医師が毎週2回、訪問看護師が毎週1回定期的にグループホームを訪問するとともに、2週間に一度は診療所にて診察が受けれるなど、他の施設にはない充実した医療的な支援が行われている。又、特養、老人保健施設、デイサービスセンター、居宅介護支援事業等の施設との連携がスムーズに行われている。広報誌は2ヵ月に1回発行され家族近隣に配られている。ホームの庭は広く、散歩道、東屋、農園があり、利用者が温かい雰囲気の中で顔なじみの人と毎日楽しく過ごせるよう支援されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	毎月のスタッフ会議を通じて、問題点を話し合い、独自のケアプラン実施表を活用したり申し送りノートを利用して、入居者本人のペースに合わせてケアが実施されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の意義を理解して、職員全員で取り組み自己研鑽を行うと共に、定期的に質の向上に努められている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者へのサービスの実際、評価への取り組み状況等について、スライドやメール等を活用し、深くより幅広い情報提供がされ話し合いや意見の交換がなされている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関に意見箱が設置され、運営推進会議においては積極的に改善に向けての話し合いがなされている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し各種地域活動にも積極的に参加されている。施設の行事には地域の絶大な支援がなされている。又、地域一体となった防災訓練等の取り組みが計画されている。

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念を掲げそれに向けて日々ケアが行われている。		ホーム独自の運営理念を掲げているが、より地域密着型の運営理念を作り上げて頂くよう期待する。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	『はまゆう憲章』を法人全体での朝礼で唱和し、法人全体でケアの統一が図られている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治体との連携が密になされており、ボランティアの受け入れ等、地域活動の施設の提供が行われている。		今後運営推進会議をさらに活用され近隣所の方と交流を深められたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価に取り組み、サービスの質の向上に努められている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事務所からの報告と共に参加メンバーから質問、意見、要望を受け、双方向的な会議になるよう配慮されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	情報は電話やFAX、メール等で収集されているが、運営会議以外では行き来する機会は持たれていない。		運営会議以外でも行き来する機会を持っていただきたい。
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時には声掛けをし、情報報告がされている。発熱、点滴など、行った際はその日に電話報告がされている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて家族代表者の意見を聞く機会がもたれている。尚、玄関に意見箱が設置してある。		家族会を発足されたい。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	なじみの職員の異動や離職がある場合は、利用者へのダメージを防ぐ努力がされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	相互研修に毎回参加されており、研修受講後は伝達講習が行われている。研修委員主催の勉強会がつきに1回行われている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム相互研修に毎回参加されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	サービス利用前に家族へホーム見学の機会を設け、本人が希望する場合はいつでも受け入れ体制が出来ている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	年長者である利用者から生活の技や生活文化の大事さを教えてもらう場面が作られている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	家族と相談しながら一人ひとりの希望に沿うように行われている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	関わりの中から思いや意見を聞き、反映されている。面会時にホームでの様子を伝えたり、生活暦を聞いたりしている。又、介護計画方針も作成されている。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	3ヵ月に1度定期的に計画の見直しが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族に情報を伝え、状況に応じ、送迎等必要な支援が行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と相談しながら希望に沿うように行われている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事前指示書にて家族の意向が聞かれている。家族、施設、部長、スタッフで話し合いの場が持たれている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーを損ねないよう気を配り、知りえた情報は外部に漏らさない配慮がされている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースに合わせるのではなく利用者のペースに合わせてるようにされている。利用者が主人公になって過ごせるよう支援されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物、食事作りは利用者と一緒にに行われている。食事は利用者と同じテーブルで同じ物を話しながら食べている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者一人ひとりの希望に合わせて入浴できるように支援されている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の生活の中で利用者一人ひとりが、楽しみやリーダー的な役割が見出せるような場面作り等の支援が行われている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者がホームの中だけで過ごすことなく積極的に買い物、散歩など外出の機会を設け、楽しめるように支援が行われている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	スタッフの連携プレーにより、外出しそうな様子を察知したらさりげない声掛けをし、1人1人から目を離さないように配慮されている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアル連絡網が整備されており、消防署の協力を得て避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方等の訓練が年2回定期的に行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1ヵ月の献立を管理栄養士が目を通し、カロリーバランスや食品の取り扱いについて助言を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳には鏡台、フロアにはソファが配慮され、中庭も整備され、利用者同士がなごやかに談話したり日光浴ができるよう、環境作りがなされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や仏壇など利用者が大事にしているものが持ち込まれ、安心して生活ができるよう配慮されている。		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	社会福祉法人 賛幸会
(ユニット名)	グループホーム はまゆうの里 A
所在地 (県・市町村名)	鳥取県 鳥取市 服部204-1
記入者名 (管理者)	田中 敬子
記入日	平成 19年 8月 1日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑
取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>運営理念を掲げそれに向けて日々ケアを行なっている。</p>	<p>ホーム独自の運営理念を掲げているが、より地域密着型の運営理念を作り上げていく必要がある。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>『はまゆう憲章』を法人全体での朝礼で唱和している。法人全体でケアの統一を図っている。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>ホーム便りには毎回運営理念を掲載している。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>散歩の際は近隣の方と挨拶を交わしたり、ゴミ拾いをしながら散歩している。近隣の方からは花を頂いたり、野菜を頂くことがある。その野菜を使って料理した際は食べて頂いている。田植え時期の前に職員が分担して用水路の掃除を行っている。</p>	<p>今後運営推進会議をさらに活用し近隣所の方と交流を深めていきたい。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>ホームからでた、古紙、段ボールを地域の回収場所に持って行っている。また、職場体験後、中学生がボランティアに来てくれたり、運動会に呼ばれたり、地域のお祭りでは、獅子舞にホームまで舞いに来て頂いた。</p>	<p>今後運営推進会議をさらに活用し近隣所の方と交流を深めていきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	法人としては、地域の方々に、介護保険の勉強会を開いた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価に取り組み、サービスの質の向上に努めている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所からの報告と共に参加メンバーから質問、意見、要望を受け、双方向的な会議となるよう配慮している。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	情報は電話やFAXで提供してもらっているが、運営会議以外では行き来する機会を持っていない。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	介護支援専門員は現任研修等で学んでいる。		勉強会を開催し職員全員が知識を持てるようにしたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で研修に行った職員からの伝達講習、勉強会を開いている。また、関連法案の資料を置いて、いつでも閲覧できるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重度化や看取りについての対応、医療との連携体制(診療所・訪問看護)の説明を行い同意を得るようにしている。契約時は相談員から詳しく丁寧に説明し契約をしている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の言葉や態度からその思いを察する努力をし、勤務者での話し合い、月に1度のスタッフ会で話し合い、管理者にはその都度報告している。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時には声掛けをし、状況報告をしている。発熱、点滴など、行なった際はその日に電話報告するようにしているが、職員によっては報告の仕方が違う。</p>		<p>職員全員が同じように、必要なことを確実にご家族に伝えられるようにしていきたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議にて御家族代表の方のご意見を伺っている。</p>		<p>家族会を発足していきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>連絡会議や、また、週に1回一緒に食事をする時に話している。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>勤務シフトは無理の無い勤務を努めている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>なじみの職員の異動や離職がある場合は、利用者へのダメージを防ぐ努力をしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	相互研修に毎回参加している。出来る限り研修に参加している。また、研修受講後は伝達講習を行なっている。研修委員主催の勉強会を月に1回行なっている。	今後も相互研修、伝達講習を継続していきたい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム相互研修に毎回参加している。	
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	月に1回スタッフ会を開催している。その時に日頃悩んでいることを聞き出している。法人全体での親睦会は年2回ほどあり、それに参加している。	
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年2回、上半期・下半期と分け目標を個々で立て、目標を持って働いている。	今後もそれぞれが目標を持って、日々のケアにあたりたい。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービスの利用について相談があった時は、必ず本人に会って心身の状態や本人の思いに向き合い、職員が本人に受け入れられるような関係作りに努めている。	
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	これまでの家族の苦労や今までのサービスの利用状況など、これまでの経緯について、ゆっくり聞くようにしている。話を聞く事で、落ち着いてもらい、次の段階の相談につなげている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人やご家族の思い、状況等を確認している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用前にご家族へホーム見学して頂いているが、本人の見学までには至っていない。しかし、希望のある場合はいつでも受け入れは可能である。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	年長者である利用者から生活の技や生活文化の大事さを教えてもらう場面を作っている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気づきの情報共有に努め、本人と一緒に支えるために家族と同じような思いで支援していることを伝えている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族、本人の思いや状況を見極めながら、外出や外泊で家族と一緒に過ごすことを勧めたり、行事に家族を誘ったりしながら、より良い関係の継続に努めている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会は受け付けている。また、以前住んでおられた場所、ふるさと訪問を行っている。	○	ふるさと訪問を定期的に行っていききたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一人ひとりが孤立しないよう職員がフォローしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院された方や退居された方の所へ面会に行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族様と相談しながら希望に沿うように行なっている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	畑仕事をされていた方などには、色々と教えていただき、畑に野菜、花などを植えている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	カルテの経過記録、ケース記録に記入するようにしている。バイタル測定は週2回は必ず行なっているが、高血圧などDrの指示で毎日2から3回測定する利用者もいる。異常のある場合はDrに指示をもらっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	関わりの中から思いや意見を聞き、反映させるようにしている。面会時にホームでの様子を伝えたり、生活暦を聞いたりしている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度は必ず計画の見直しを行なっている。		利用者様の状態の急な変化に介護計画の建て直しを行なっていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態変化は個々のケア記録に記入し、職員間での情報共有を徹底している。		食事量・水分摂取量・排泄の有無の記録は徹底して行なっている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族に情報を伝え、状況に応じ、送迎等必要な支援を行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署や民生委員等と意見交換をする機会を設けている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問理美容サービスを利用している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	成年後見制度が必要と思われる利用者に利用できるよう支援している。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様と相談しながら希望に沿うように行なっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	さりげない言葉掛け、対応に配慮して利用者様のプライバシーを損ねないよう気をつけている。知りえた情報は外部に漏らさない。	職員が利用者様のプライバシーに関する話を話さないことを徹底する。
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	1人ひとり出来る事を見つけ、出来る事はやっていただく。利用者様と過ごす時間を通して希望、関心、嗜好を見極め、本人が選びやすい場面づくりに努めている。	些細な場面でも本人が決める場面を作る。
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「その日」したいことを把握し、利用者が主人公になって過ごせるよう支援している。職員のペースに合わせるのではなく利用者のペース合わせるようにしている。	時間を区切った過ごし方をしないように1人ひとりの体調に配慮し、その時の本人の気持ちを尊重していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	外出の際はおしゃれをして出掛けられるよう支援している。散髪・毛染めは福祉理美容(2週に1度)に来てもらっている。	今後も外出時はおしゃれをして出掛けられるよう支援していきたい。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物、食事作りは利用者様と行なっている。食事は利用者様と同じテーブルで同じ物を話をしながら食べている。	今後も利用者様の食べたい物を聞きながら、献立を考えていきたい。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者様に食べたいお菓子などを聞き、誕生日にはケーキを作ったり、季節のおやつを食べたりしている。誕生日にはその方が食べたい物を伺いメニューに取り替えている。	今後も買い物に出た時などに利用者様が食べたい物など買えるよう支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>排泄チェック表を使用し、1人ひとりの排泄パターンを把握して、出来る限りパットを使用しないよう、またトイレで排泄できるよう支援している。</p>		<p>トイレ誘導時の声掛けは、利用者様1人ひとりのその時々 の状態に合わせて、プライバシーに配慮し行なっている。</p>
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>曜日や時間帯を入居者1人ひとりの希望に合わせて入浴できるように支援している。入浴をされない日は足浴を行なう利用者様もいる。</p>		<p>入浴前にその日の健康状態を確認し入浴していただいている。入浴時間等利用者様にあわせた入浴支援を行なっている。</p>
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>利用者様1人ひとりの生活パターンを把握し、緊張や不安を取り、安心して心身が休めれるよう支援している。</p>		<p>なるべく日中の活動を促し、生活のリズムを整えるよう努めている。</p>
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>1日の生活の中で利用者様1人ひとりが、楽しみやリーダー的な役割が見出せるような場面作り等の支援を行なっている。</p>		<p>1人ひとりが輝かれるように1人ひとりの持っておられる特技・興味など力を活かした役割を活かしていただけるよう支援している。</p>
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>利用者様が自分のお金を持つ事で安心して生活し、日常の金銭管理を本人が行い、食べたい物や生活用品を希望に応じて購入できるよう支援している。</p>		<p>管理の出来る方には小額だが自分で管理してもらっている。</p>
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>利用者様がホームの中だけで過ごすことなく積極的に買い物、散歩など外出の機会を設け、楽しめるように支援作りを行なっている。</p>		<p>利用者様1人ひとりに声掛けをし、外出の楽しさを知っていただいている。</p>
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>毎月イベントを計画し、外出支援を行なっている。ドライブに出掛けた時は、出来る限り利用者様が以前住んでいた家の近くを通るようにしている。</p>		<p>隣接する老健や特養合同のイベントにも積極的に参加し、交流の機会を持っている。花見に家族の参加を呼び掛けている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて日常的に電話や手紙を出せるように支援している。		電話が使用しやすいように配慮している。また子機も活用している。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	各家族に、その方に応じた柔軟な態度で、気軽に来やすいよう、職員がいつも笑顔でさりげなく配慮している。		いつでも都合の良い時間に訪ねて来られるように配慮している。サンルームで気兼ねなく過ごしていただくことが出来る。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ間で自分にされては嫌な事はしないことが認識されている。		自分の身内に置き換えて、また、自分に置き換えてケアをしている。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日々一人一人から目を離さない。外出しそうな様子を察知したらさりげない声掛けをし、一緒に歩いている。		スタッフの連携プレー(アイコンタクト等を含む)の意識付けをしていきたい。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	スタッフは申し送り、記録等の作業は利用者と同じ空間の中で作業し、さりげなく全員から目を離さないようにしている。また、すぐ対応出来るようにしている。		24時間利用者の安全に配慮している。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	全てを取り除くような事は無く、利用者の状況変化で対応している。		厳重に保管すべきもの、保管管理が必要なもの、利用者が使用するときに注意が必要なもの等に分けている。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	困った時はすぐカンファレンスを行い、職員間の共有認識を図っている。	○	ヒヤリハット、事故報告書を速やかに作成し、事故の原因、今後の予防に検討している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	夜勤時の勤務時対応について、マニュアルを整備し、周知徹底を図っている。	○	消防署の協力を得て救急手当や蘇生術の研修を実施し職員が対応できるようにしている。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を実施している。	○	消防署の協力を得て避難訓練、避難経路の確認、消化器の使い方等の訓練を定期的に行なっている。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	様々な役割活動や自由な外出によりリスクが高くなる事等具体的に説明している。	○	事業所の取り組みを丁寧に説明し理解を得られるように努めている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況を把握し様子等の変化が見られた時はバイタルチェックし記録に残している。また、Dr, Nsとの連携をとっている。		体調や些細な表情の変化を見逃さないよう早期発見に取り組んでいる。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の処方箋を整理し、内容把握出来るようにしている。服薬時は本人に手渡しするか、口の中に確実に薬を入れ、きちんと内服できているか確認している。		薬の処方や用量が変更された時や、本人の状況変化が見られた時はいつもより詳細な記録をとる様にしている。Dr, Nsと連携を図るようにしている。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品を取り入れている。また、散歩、身を動かす機会を設け、自然排便できるよう取り組んでいる。便秘症の方には起床時、冷水を飲んで頂いている。	○	食材の工夫や運動を働きかけて自然排便できるよう取り組んでいる。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアの声掛け、見守り、介助を行っている。		虫歯、義歯の修理などは歯科住診に来てもらい治療していただいている。また、歯科衛生士より口腔ケアの仕方を指導してもらっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1ヶ月の献立を管理栄養士が通し、カロリーバランスや助言をもらっている。		水分を取りたがらない入居者に対しては、ジュース、ゼリー等で対応している。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症に対する予防、マニュアルがあり、実行している。毎食前には手洗い・うがいを徹底している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、台拭き等の次亜塩素酸消毒、食器・包丁等は食器洗い乾燥機を使用している。なるべく新鮮で安全な野菜を選んで購入している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の入り口に花を置いている。置物の犬を置き利用者に話しかけてもらっている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳には鏡台、フロアにはソファを配置し、利用者同士が集まって談話したり日光浴している。	○	もう少し季節感を取り入れるよう努めたい。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのソファではゆったりと新聞を読んだり、ぬりえをされたり、毎日利用者さんが自主的に集まり合唱を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や仏壇など利用者が大事にしているものが持ち込まれ安心して過ごしていただけるよう心掛けている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	適宜換気を行っている。また、温度計を設置し、定時の測定を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	流し台で作業しにくい利用者に対しては、食堂のテーブルから作業を行ってもらっている。	○	もっと利用者の自立を意識した工夫を行っていきたい。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	「どうしたら本人の力でやっていただけるか」を考え、表示したり、目印を付けたりと工夫をしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑には野菜や花を植えるスペースを確保し、また、草取りなど、日常的に楽しみながら活動できる環境を作っている。また、サンルームでは日向ぼっこが出来るようになっている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
		<input type="radio"/>	たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・診療所が併設しており 医療との連携が図れている。

・暖かい雰囲気の中で顔なじみの方と 毎日楽しく過ごして頂けるよう支援させて頂いている。

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	社会福祉法人 賛幸会
(ユニット名)	グループホーム はまゆうの里 B
所在地 (県・市町村名)	鳥取県 鳥取市 服部204-1
記入者名 (管理者)	田中 敬子
記入日	平成 19年 8月 1日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑
取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>運営理念を掲げそれに向けて日々ケアを行なっている。</p>	<p>ホーム独自の運営理念を掲げているが、より地域密着型の運営理念を作り上げていく必要がある。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>『はまゆう憲章』を法人全体での朝礼で唱和している。法人全体でケアの統一を図っている。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>ホーム便りには毎回運営理念を掲載している。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>散歩の際は近隣の方と挨拶を交わしたり、ゴミ拾いをしながら散歩している。近隣の方からは花を頂いたり、野菜を頂くことがある。 田植え時期の前に職員が分担して用水路の掃除を行っている。 畑の管理、アドバイスを近隣の方にしてもらっている。</p>	<p>今後運営推進会議をさらに活用し近隣の方と交流を深めていきたい。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>ホームからでた、古紙、段ボールを地域の回収場所に持って行っている。また、職場体験後、中学生がボランティアに来てくれたり、運動会に呼ばれたり、地域のお祭りでは、獅子舞にホームまで舞いに来て頂いた。</p>	<p>今後運営推進会議をさらに活用し近隣の方と交流を深めていきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	法人としては、地域の方々に、介護保険の勉強会を開いた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価に取り組み、サービスの質の向上に努めている。		評価を活かして 職員で話し合いを持ち ケアの見直しやサービスの向上に努めている。また、継続していく。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所からの報告と共に参加メンバーから質問、意見、要望を受け、双方向的な会議となるよう配慮している。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	情報は電話やFAXで提供してもらっているが、運営会議以外では行き来する機会を持っていない。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	介護支援専門員は現任研修等で学んでいる。		勉強会を開催し職員全員が知識を持てるようにしたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で研修に行った職員からの伝達講習、勉強会を開いている。また、関連法案の資料を置いて、いつでも閲覧できるようにしている。		今後も定期的に勉強会を行っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重度化や看取りについての対応、医療との連携体制(診療所・訪問看護)の説明を行い同意を得るようにしている。契約時は相談員から詳しく丁寧に説明し契約をしている。</p>		<p>職員全員が質問・疑問などの回答が出来るように 把握、熟知しておく。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の言葉や態度からその思いを察する努力をし、勤務者での話し合い、月に1度のスタッフ会で話し合い、管理者にはその都度報告している。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時には声掛けをし、状況報告をしている。発熱、点滴など、行なった際はその日に電話報告するようにしているが、職員によっては報告の仕方が違う。</p>		<p>職員全員が同じように、必要なことを確実にご家族に伝えられるようにしていきたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議にて御家族代表の方のご意見を伺っている。玄関に意見葉箱を設置している。</p>		<p>家族会を発足していきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>連絡会議や、また、週に1回一緒に食事をする時に話している。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>勤務シフトは無理の無い勤務を努めている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>なじみの職員の異動や離職がある場合は、利用者へのダメージを防ぐ努力をしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	相互研修に毎回参加している。出来る限り研修に参加している。また、研修受講後は伝達講習を行なっている。研修委員主催の勉強会を月に1回行なっている。	今後も相互研修、伝達講習を継続していきたい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム相互研修に毎回参加している。	他グループホームとも入居者、職員の交流が図れる機会を設けたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	月に1回スタッフ会を開催している。その時に日頃悩んでいることを聞き出している。法人全体での親睦会は年2回ほどあり、それに参加している。	
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年2回、上半期・下半期と分け目標を個々で立て、目標を持って働いている。	今後もそれぞれが目標を持って、日々のケアにあたりたい。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービスの利用について相談があった時は、必ず本人に会って心身の状態や本人の思いに向き合い、職員が本人に受け入れられるような関係作りに努めている。	
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	これまでの家族の苦労や今までのサービスの利用状況など、これまでの経緯について、ゆっくり聞くようにしている。話を聞く事で、落ち着いてもらい、次の段階の相談につなげている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人やご家族の思い、状況等を確認している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用前にご家族へホーム見学して頂いているが、本人の見学までには至っていない。しかし、希望のある場合はいつでも受け入れは可能である。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	年長者である利用者から生活の技や生活文化の大事さを教えてもらう場面を作っている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気づきの情報共有に努め、本人と一緒に支えるために家族と同じような思いで支援していることを伝えている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族、本人の思いや状況を見極めながら、外出や外泊で家族と一緒に過ごすことを勧めたり、行事に家族を誘ったりしながら、より良い関係の継続に努めている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会は受け付けている。また、以前住んでおられた場所、ふるさと訪問を行っている。	○	ふるさと訪問を定期的に行っていききたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一人ひとりが孤立しないよう職員が個別に話を聞いたり利用者様同士が話しが出来る様に職員が調整役となって支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居された後も電話で様子を聞いたり、面会に行ったり。法人の老健には、仲良くしていた利用者様も一緒に行っていた。だいている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族様と相談しながら希望に沿うように行なっている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	畑仕事をされていた方などには、色々と教えていただき、畑に野菜、花などを植えている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	カルテの経過記録、ケース記録に記入するようにしている。バイタル測定は週2回は必ず行なっているが、高血圧などDrの指示で毎日2から3回測定する利用者もいる。異常のある場合はDrに指示をもらっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	関わりの中から思いや意見を聞き、反映させるようにしている。面会時にホームでの様子を伝えたり、生活歴を聞いたりしている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度は必ず計画の見直しを行なっている。		利用者様の状態の急な変化に介護計画の建て直しを行なっていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態変化は個々のケア記録に記入し、職員間での情報共有を徹底している。		食事量・水分摂取量・排泄の有無の記録は徹底して行なっている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族に情報を伝え、状況に応じ、送迎等必要な支援を行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署や民生委員等と意見交換をする機会を設けている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問理美容サービスを利用している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	成年後見制度が必要と思われる利用者に利用できるよう支援している。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様と相談しながら希望に沿うように行なっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神科の認知症外来に紹介するなどしている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	診療所が併設されており、また、訪問看護と契約しており、24時間の協力体制が整っている。さらに、老健、特養のバックアップ施設からの協力も得られる。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合、お見舞いに訪れ、状態を本人・家族・病院関係者から聞くようにしている。また、入院中に家族に電話で状態を聞くこともある。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事前指示書にて家族の意向を聞いているが、早めにカンファレンスを、御家族、施設長(医師)、部長、スタッフで話し合いの場を持つようにしている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	施設内看取り例の経験があり、今後さらに整備を進めていきたい。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移り住むことになった場合、暮らしやケアの継続が保たれるよう、伝達をなるべく詳しく 個別情報の伝達を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	さりげない言葉掛け、対応に配慮して利用者様のプライバシーを損ねないよう気をつけている。知りえた情報は外部に漏らさない。	職員が利用者様のプライバシーに関する話を話さないことを徹底する。
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	1人ひとり出来る事を見つけ、出来る事はやっていただく。利用者様と過ごす時間を通して希望、関心、嗜好を見極め、本人が選びやすい場面づくりに努めている。	些細な場面でも本人が決める場面を作る。
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「その日」したいことを把握し、利用者が主人公になって過ごせるよう支援している。職員のペースに合わせるのではなく利用者のペース合わせるようにしている。	時間を区切った過ごし方をしないように1人ひとりの体調に配慮し、その時の本人の気持ちを尊重していきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	外出の際はおしゃれをして出掛けられるよう支援している。散髪・毛染めは福祉理美容(2週に1度)に来てもらっている。	今後も外出時はおしゃれをして出掛けられるよう支援していきたい。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物、食事作りは利用者様と行っている。食事は利用者様と同じテーブルで同じ物を話をしながら食べている。	今後も利用者様の食べたい物を聞きながら、献立を考えていきたい。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者様に食べたいお菓子などを聞き、誕生日にはケーキを作ったり、季節のおやつを食べたりしている。誕生日にはその方が食べたい物を伺いメニューに取り替えている。	今後も買い物に出た時などに利用者様が食べたい物など買えるよう支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を使用し、1人ひとりの排泄パターンを把握して、出来る限りパットを使用しないよう、またトイレで排泄できるよう支援している。		トイレ誘導時の声掛けは、利用者様1人ひとりのその時々 の状態に合わせて、プライバシーに配慮し行なっている。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間帯を入居者1人ひとりの希望に合わせて入浴できるように支援している。入浴をされない日は足浴を行なう利用者様もいる。		入浴前にその日の健康状態を確認し入浴していただいている。入浴時間等利用者様にあわせた入浴支援を行なっている。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者様1人ひとりの生活パターンを把握し、緊張や不安を取り、安心して心身が休めれるよう支援している。		なるべく日中の活動を促し、生活のリズムを整えるよう努めている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	1日の生活の中で利用者様1人ひとりが、楽しみやリーダー的な役割が見出せるような場面作り等の支援を行なっている。		1人ひとりが輝かれるように1人ひとりの持っておられる特技・興味など力を活かした役割を活かしていただけるよう支援している。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様が自分のお金を持つ事で安心して生活し、日常の金銭管理を本人が行い、食べたい物や生活用品を希望に応じて購入できるよう支援している。		管理の出来る方には小額だが自分で管理してもらっている。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者様がホームの中だけで過ごすことなく積極的に買い物、散歩など外出の機会を設け、楽しめるように支援作りを行なっている。		利用者様1人ひとりに声掛けをし、外出の楽しさを知っていただいている。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	毎月イベントを計画し、外出支援を行なっている。ドライブに出掛けた時は、出来る限り利用者様が以前住んでいた家の近くを通るようにしている。		隣接する老健や特養合同のイベントにも積極的に参加し、交流の機会を持っている。花見に家族の参加を呼び掛けている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて日常的に電話や手紙を出せるように支援している。		電話が使用しやすいように配慮している。また子機も活用している。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	各家族に、その方に応じた柔軟な態度で、気軽に来やすいよう、職員がいつも笑顔でさりげなく配慮している。		いつでも都合の良い時間に訪ねて来られるように配慮している。サンルームで気兼ねなく過ごしていただくことが出来る。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ間で自分にされては嫌な事はしないことが認識されている。		自分の身内に置き換えて、また、自分に置き換えてケアをしている。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日々一人一人から目を離さない。外出しそうな様子を察知したらさりげない声掛けをし、一緒に歩いている。		スタッフの連携プレー(アイコンタクト等を含む)の意識付けをしていきたい。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	スタッフは申し送り、記録等の作業は利用者と同じ空間の中で作業し、さりげなく全員から目を離さないようにしている。また、すぐ対応出来るようにしている。		24時間利用者の安全に配慮している。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	全てを取り除くような事は無く、利用者の状況変化で対応している。		厳重に保管すべきもの、保管管理が必要なもの、利用者が使用するときには注意が必要なもの等に分けている。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	困った時はすぐカンファレンスを行い、職員間の共有認識を図っている。	○	ヒヤリハット、事故報告書を速やかに作成し、事故の原因、今後の予防に検討している。家族への連絡をその日に行うようにしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	夜勤時の勤務時対応について、マニュアルを整備し、周知徹底を図っている。	○	消防署の協力を得て救急手当や蘇生術の研修を実施し職員が対応できるようにしている。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を実施している。	○	消防署の協力を得て避難訓練、避難経路の確認、消化器の使い方等の訓練を定期的に行なっている。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	様々な役割活動や自由な外出によりリスクが高くなる事等具体的に説明している。	○	事業所の取り組みを丁寧に説明し理解を得られるように努めている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況を把握し様子等の変化が見られた時はバイタルチェックし記録に残している。また、Dr、Nsとの連携をとっている。		体調や些細な表情の変化を見逃さないよう早期発見に取り組んでいる。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の処方箋を整理し、内容把握出来るようにしている。服薬時は本人に手渡しするか、口の中に確実に薬を入れ、きちんと内服できているか確認している。		薬の処方や用量が変更された時や、本人の状況変化が見られた時はいつもより詳細な記録をとる様にしている。Dr、Nsと連携を図るようにしている。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品を取り入れている。また、散歩、身を動かす機会を設け、自然排便できるよう取り組んでいる。	○	食材の工夫や運動を働きかけて自然排便できるよう取り組んでいる。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアの声掛け、見守り、介助を行っている。		虫歯、義歯の修理などは歯科往診に来てもらい治療していただいている。また、歯科衛生士より口腔ケアの仕方を指導してもらっている。口腔ケアの重要性を理解し 職員全体で技術の向上、ひとりひとりの口腔内の把握を行いたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1ヶ月の献立を管理栄養士が通し、カロリーバランスや助言をもらっている。 食事量や水分量を毎日チェックし記録し、職員が情報を共有している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症に対する予防、マニュアルがあり、実行している。毎食前には手洗いうがいを徹底している。利用者様、御家族様のも同意いただき、職員共にインフルエンザ予防接種を受けている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、台拭き等の次亜塩素酸消毒、食器・包丁等は食器洗い乾燥機を使用している。なるべく新鮮な野菜を選んで購入している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の入り口に花を置いている。置物の犬を置き利用者に話しかけてもらっている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳には鏡台、フロアにはソファを配置し、利用者同士が集まって談話したり日光浴している。	○	利用者様と一緒に考え、もう少し季節感を取り入れるよう努めたい。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのソファで臥床したり新聞を読むことが出来る。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や仏壇など利用者が大事にしているものが持ち込まれ安心して過ごしていただけるよう心掛けている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	適宜換気を行っている。また、温度計を食堂と居室1室に設置し、定時の測定を行っており、頻回に訪室する事で外気温との差がないように配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	流し台で作業しにくい利用者に対しては、食堂のテーブルから作業を行ってもらっている。	○	もっと利用者の自立を意識した工夫を行っていきたい。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	「どうしたら本人の力でやっていただけるか」を考え、表示したり、目印を付けたりと工夫をしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑には野菜や花を植えるスペースを確保し、また、草取りなど、日常的に楽しみながら活動できる環境を作っている。また、サンルームでは日向ぼっこが出来るようになっている。		

. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
		○	たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
		○	少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
		○	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・ 診療所が併設しており 医療との連携が図れている。
- ・ 暖かい雰囲気の中で顔なじみの方と 毎日楽しく過ごして頂けるよう支援させて頂いている。